

2023年度 乙訓少年野球連盟 大会規則及び大会注意事項

- (1) 競技規則は2023年度公認野球規則及び全日本軟式野球連盟（JSBB）の内規を適用する。大会規則は京都軟式野球連盟の学童軟式野球大会規則を準用し、当連盟の特別規則（下線部）を採用する。
- (2) 代表者会議で説明または決定された事項は、チーム全員に徹底させること。
- (3) ベンチは、組み合わせ番号の若い方を一塁側とする。
- (4) 代表者、監督、コーチは社会人に限る。コーチが監督を代行する場合はメンバー表の監督欄に背番号と氏名を記載し、試合開始前に申告すること。
- (5) ベンチに入れる人員は代表者、監督1名、コーチ2名、スコアラー1名と選手（原則、10名以上25名以内）とする。
- (6) 次の試合を行うチームは試合開始予定時刻30分前までに集合し、所定の打順表を作成（氏名フルネーム、ふりがな、控え選手も含め登録選手全員記入）して試合開始予定時刻30分前までに大会本部へ提出する。
- (7) 試合開始予定時刻前でも前の試合が早く終了した場合は直ちに次の試合を開始する。ただし、定刻の開始時間よりも30分前に試合開始をすることはしない。
- (8) 試合開始予定時刻になっても、球場に来ない場合は原則として棄権とみなす。
- (9) 小雨の場合でも日程の都合上、球場が使用可能な状態の場合は試合を行う。
- (10) 本大会の試合回数は6回（1時間20分以降は新しいイニングには入らない）とする。6回終了または時間打ち切りで勝敗の決しない時は、最終メンバー9名による抽選（先攻チームから交互に守備位置順）で決める。決勝戦は6回戦とするが、試合開始後1時間30分経過以降は均等回完了をもってゲーム終了とする。なお同点の場合は次回からタイブレーク方式（継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁の走者とする。すなわち、0アウト一塁・二塁から得点を競う）を行い、タイブレーク方式を規定回完了しても決着がつかないときは、最終メンバー9名による抽選で優勝を決定する。Aの部、Bの部の決勝戦、3位決定戦を含む全試合、4回10点、5回7点差がある場合は、コールドゲームを採用する。C（ジュニア）の部では決勝戦、3位決定戦を含む全試合、3回15点、4回10点差がある場合、コールドゲームを採用する。
- (11) 暗黒、降雨、グラウンド使用時間の制限などで試合を中止したとき、4回終了または試合時間1時間をもって正式試合成立とし、均等回の得点で勝敗を決する。正式試合成立以前に試合を中止した場合はノーゲームとし再試合を行う。なお、日程調整上、Wヘッダーを行なうことがある。
- (12) 大会使用球はJSBB公認J号球を使用する。大会により（マルエス）、（ケンコー）の2メーカーを使用するが、一大会は同一のメーカーのものをもって大会使用球とする。
- (13) 捕手は必ずJSBB公認のプロテクター、レガーズ、マスク（スロートガード付）、捕手用ヘルメットおよびファウルカップを着用しなければならない。
- (14) 金属製バットは、JSBB公認のみ使用できる。
- (15) 打者、次打者、走者、ベースコーチは、ヘルメットを着用しなければならない。
- (16) 同一チームの各プレーヤー、監督、コーチは同色、同形、同意匠のユニフォーム（帽子、アンダーシャツ、ストッキングを含む）を着用し、スパイクは金属製金具のついたスパイクは使用出来ない。なおスパイクの色は自由とし、全員同色でなくても構わない。
- (17) 背番号は監督30番、コーチ28・29番、主将10番、選手は0番から99番までの数字であること。ベンチに入る代表者、スコアラーも同意匠の帽子を着用すること。
- (18) タイムはプレーヤーが要求したときではなく、審判員が認めた時である。
- (19) 抗議のできるものは監督、または当該のプレーヤーのみとする。（ルールの適用を誤った時だけ）
- (20) どんな方法であろうと相手チームのプレーヤー及び審判員に対し、悪口暴言を吐くことを禁ずる。
- (21) 選手及び応援団の行動については、当該チームが一切その責任を負うものとする。
- (22) 変化球は一切禁止する。（詳細は別記の全日本軟式野球連盟取り決め事項参考）
- (23) 投手の投球数制限を70球（4年生以下の投手については60球）に達した場合、その打者の打撃中に攻守交代となるか、打撃を完了するまで投球できる。
- (24) 死球（コールはヒットバイピッチ）及びボーグを採用する。隠し球は禁止する。ただしBの部、Cの部のボーグに関しては後述の大会規則補足を参照。

【大会規則補足】

※ 全日本軟式野球連盟取り決め事項（競技者必携 2023 抜粋）

学童部の投手は変化球を投げることを禁止する。投球が審判員によって変化球と判断された場合は、次のペナルティーを科すこととする。

- (1) 変化球に対して“ボール”を宣告する。
- (2) 投手が変化球を投げた場合は、監督および投手に注意する。注意したにもかかわらず、同一投手が同一試合で再び変化球を投げたときは、その投手を交代させる。なお、その投手は他の守備位置につくことは許されるが、大会期間中、投手として出場することはできない。
- (3) 変化球を投げた時にプレイが続いているときは、打者が一塁でアウトになるか、走者が次塁に達するまでにアウトになった場合は、プレイを無効とし、打者のカウントに“ボール”を加える。この場合の状況によっては、攻撃側の監督の申し出があれば、プレイはそのまま有効とする。ただし、打者が安打、失策、四球、死球、その他で一塁に達し、走者が進塁するか、占有塁にとどまっている場合は、変化球と関係なくプレイはそのまま続けられる。

※ ボールデッドライン付近のファウルボール、ボールデッドの取り扱いについて

野手は捕球のために場外に手を差し伸べることはできるが、足を踏み込むことはできない。フェア飛球またはファウル飛球（ファウルチップを除く）を正規に捕球した後にボールデッドの個所に踏み込めば、打者はアウトとなるが他の走者は野手が踏み込んだ時の占有塁から一個の進塁が許される。

1. 打球あるいは送球が場外となるのを防ぐための捕球で野手がボールデッドの個所に踏み込んだとき、打球と野手の悪送球には二個、投手の牽制悪送球に対しては一個の進塁が与えられる。

2. ボールデッドライン付近の飛球に対し、“ファウル”の宣告を審判員が早める場合がある（捕球前にファウルと宣告された飛球を野手が捕球しても無効である）。

※ リーグ戦での順位決定は、①勝率、②勝ち試合数、③失点率（一試合あたりの失点）、④直接対決の結果の順で成績を決定する。それでもなお同点同率の場合は、代表者による抽選とする。

※ C（ジュニア）およびBの部の試合時間、決勝戦、その他の取り決め事項

	C（ジュニア）	Bの部	Aの部
塁間と投捕間	21mと14m	23mと16m	
イニング数	5回あるいは1時間10分	6回あるいは1時間20分	
3位決定戦	5回あるいは1時間10分	6回あるいは1時間20分	6回あるいは1時間20分 タイブレーク方式1回
決勝戦	5回あるいは1時間20分 タイブレーク方式1回	6回あるいは1時間30分 タイブレーク方式1回	6回あるいは1時間30分 タイブレーク方式3回
※タイブレーク方式でも同点の場合は抽選とする			

☆C（ジュニア）の部では、暗黒、降雨、グラウンド使用時間の制限などで試合を中止したとき、3回終了または試合時間50分をもって正式試合成立とし、均等回の得点で勝敗を決する。後攻チームが得点をリードする試合において、先攻チームの攻撃終了時に試合時間が1時間5分を超えていたときは、その時点で試合終了とする。

☆マークの採用について、Bの部では教育的指導を行った上で、再度、同一の不正があれば採用する。

C（ジュニア）の部では教育的指導を繰り返す。ただし、Bの部、Cの部共に審判がマークの採用が妥当と判断した場合はマークを採用し、これに対して他の者は何人たれ抗議する事は出来ない。

☆監督が1試合に投手のところへ行ける回数の制限は：1試合3回以内、守備側のタイムの回数制限は：1試合3回以内、攻撃側のタイムの回数制限は：1試合3回以内とする。タイブレーク方式の場合は各イニング毎に上記3種類のタイムをそれぞれ1回に限り認める。

【乙訓少年野球連盟 審判員心得について】

審判員の帽子は紺または黒、ズボンは紺またはチャコールグレー、上着は夏期（5月初～9月末）は白の半袖シャツ若しくは長袖シャツ、冬期（10月～4月末）は紺または黒を着用する。靴は黒色に統一する。但し、当連盟の指定審判帽、審判服 及び参加チームの加盟団体が別途定めた審判帽、審判服についても着用を可とする。審判員は試合前に下記の事項を確認し合い、相互に協力して試合を裁定する。

☆ グラウンドルールの確認。

☆ マークの判定に際して、投手の軸足、自由な足の踏み出す方向をよく見る。

☆ 墓審は打者のハーフスイングを注視し、球審からの確認要請に備える。

☆ 各イニング攻守交代時にプレート板周辺を整え、ベンチからの選手追い出しに協力する。

☆ 得点、試合開始と終または了時間の確認。

☆ 足を高く上げての危険なスライディングの禁止、ペナルティーの採用、教育指導。

☆ 監督が一試合に投手のところに行く回数（6回戦の場合3回以内）の確認。

☆ 捕手を含む内野手が一試合に投手のところに行ける回数（6回戦の場合3回以内）の確認

☆ 攻撃側のタイムの回数（1試合に3回まで）の確認

☆ 不必要なタイム、ボール回しなど、遅延行為の防止協力。

【淀川河川敷公園 野球場 大山崎第2面のグラウンドルールについて】

ボールデッドラインはバックネット裏から両チームベンチ前の側溝コンクリート蓋およびコンクリートブロックより以遠とする。一塁側はコンクリートブロックの延長線上をボールデッドラインとして審判員がボールデッドを判断する。コンクリートブロックからの跳ね返りはインプレイとする。

フェアボールがレフトからセンターにかけての植え込み（レフト線から6つ目、ゴルフ禁止の看板の右隣の植え込みまで）手前のラインを超えた場合、ボールデッド、ツーベースとし、フェア飛球がこのラインを超えた場合、本塁打とする。ただし、飛球が最初に落ちた地点がファウル地域内であれば、ファウルボールとする。（レフト線の目印であるポールの上空を巻き込んだとしても最初に落ちた地点がファウル地域内であれば、ファウルボールとする）

公園グラウンドは最終使用時間の終了と同時に駐車場ゲートが閉鎖されます。よって、使用時間終了10分前を限度として試合を途中で終了することがあります。その場合、正式試合が成立していれば均等回の得点をもって勝敗を決します。

【ベンチ入りする指導者、保護者へのお願い】

ベンチ内およびその周辺での携帯電話の使用は禁止します。メガホンは一個に限り使用を認めます。ベンチを含む競技場内での喫煙、ガム噛みを禁止します。指導者は学童野球にふさわしい服装を心掛けて下さい。

大会会場における災害、事故等については、施設・当連盟は一切の責任を負いません。特に小さいお子さんには同伴する大人が注意を払って下さい。また、スポーツ安全保険またはそれに類する保険への未加入者はベンチに入れないので下さい。

競技者必携による注意事項

1. 頭部へのヒット・バイ・ピッチ

その程度を問わず臨時代走の処置を行う。

臨時代走は試合に出ている9人の中から代走(打順の前位の者、ただし投手を除く)を認めて試合を進行する。

2. 試合時間の管理

プレーヤー等の負傷手当のための遅延は試合時間に算入しない。

3. 投手の 12 秒及び 20 秒ルール

当連盟では採用しないが、極端に時間を使う投手に対しては審判員の判断により注意することとする。

4. マナーアップ

- ① 攻守交代の際に、控え選手がベンチを出て守備練習を見守ることを禁止する。
- ② 投手の準備投球に合わせて、先頭打者、次打者が次打者席で素振りをする以外、他の選手がベンチを出て素振りすることを禁止する。
- ③ 投手が投手板に触れて投球位置についたら、投手の動揺を誘うような大きな声を発することを禁止する。
- ④ いかなる状況であっても、ベンチ内外の大人が選手を萎縮させるような言動を禁止する。

5. 準備投球時の安全確保

控えの選手等が準備投球を捕球する際は、捕手に求められる用具をすべて着用していない限り、立って捕球すること。

6. フレアグリップ

後付けのフレアグリップは、専用テープ等で完全に固定・被覆されたなだらかな形状のものであれば使用は認める。

以上